

令和4年度 七条中学校 学校評価実施報告書(中間評価)

教育目標

「自主・自律・共創(Co-クリエイティブ)」

～社会や人とのつながりの中で、自らを律し主体的に学び、

共に未来を創造する生徒の育成～

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	8月22日、9月21日、10月5日、25日	学校運営協議会、学校保健委員会、(保護者)

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

社会とのつながり・接続を実感できる授業への改善、主体的に学びあい、新しい価値を創造する力を育む。

具体的な取組

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得と、言語活動の充実をめざし、教科主任会・教科会を十分に機能させ、授業を積極的に改善する。
- ② 家庭学習の充実、生徒の「やる気」を起こさせる課題の開発と共に、GIGAスクール構想を計画的に推進する。
- ③ 身につけた知識・技能の活用をめざし、課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を育成するための学習活動を積極的に取り入れる。
- ④ 評価の見取りと手立ての振り返り、指導と評価の一体化に努め、生徒一人一人の学習目標の達成に向けてニーズに応じた指導を徹底するとともにC評価生徒への手立てを遂行する。
- ⑤ 「学習確認プログラム」「全国学力・学習状況調査(4月実施)」等の結果をもとに生徒の学力の実態を分析して、指導計画の工夫・改善に心がけ、生徒が自ら学ぼうとする姿勢を培う。
- ⑥ 「ESD-SDGsカレンダー」「評価カレンダー」をもとに、様々な場面での子どもの学びやつけたい力の体系的な見通しと補填を行う。
- ⑦ キャリア教育の視点に立ち、「総合的な学習の時間」のねらいや学習内容を明確にし、探究力・課題解決能力を育成する。
- ⑧ 読書指導(朝読書の継続)・図書館教育の充実(図書室を利用した授業)を図る。

(取組結果を検証する)各種指標

(1年生)ジョイントプログラム

(2年生)学習確認プログラム Pre-Stage 1

(3年生)全国学力学習状況調査、学習確認プログラム 1st Stage

(生徒アンケート)

(保護者アンケート)

各種指標結果

(1年生) ジョイントプログラム

- ・全市と比べて国語、数学ともに 2 ポイント程度高い。
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が 5 ポイント程度高い。
- ・数学では、「データの活用」が 2 ポイント程度低い。
- ・予習復習プリントを含めてふだん 1 時間以上勉強しているのは 60%以上。

(2年生) 学習確認プログラム Pre-Stage 1

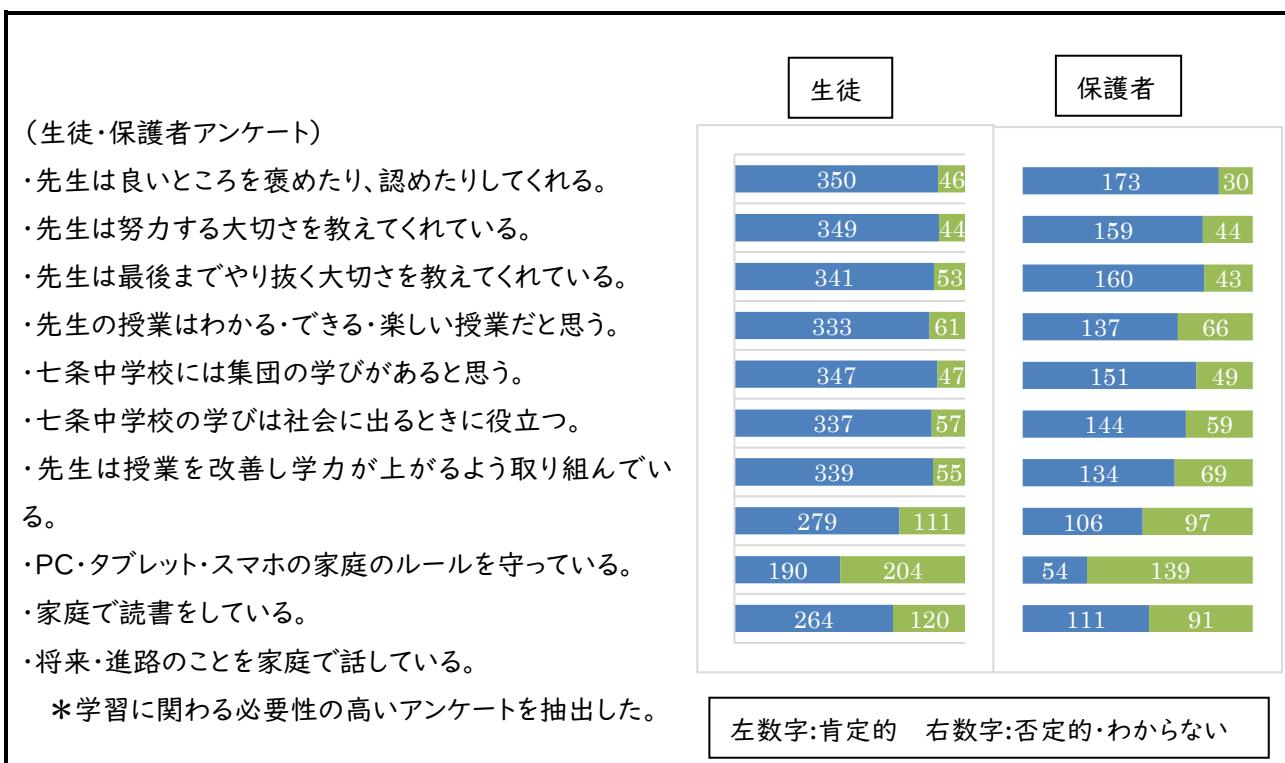
- ・全市平均と比べて国語が 6 ポイント、社会が 12 ポイント、数学が 4 ポイント、理科が 3 ポイント、英語が 4 ポイント程度高い。理科以外は前年度と比べてがんばり度が上がっている。
- ・国語では、「聞くこと・漢字の読み書き」が全市平均並み。
- ・社会では、正答率が全市 1 位で低位の生徒が少ない。
- ・数学では、「データの活用」が 1 ポイント程度低く、低位の生徒に分布のこぶが見られる。
- ・理科では、全市平均と同じように正答率 50%の生徒に一番大きい分布のこぶが見られる。前年度と比べてがんばり度が 1 ポイント程度下がっている。
- ・英語では「読むこと」が全市平均並み、「書くこと」が 6 ポイント程度高く、正答率 40%以下に分布のこぶが見られる。
- ・予習プリントを含めてふだん 1 時間以上勉強しているのは 50%以上であるが、復習プリントは 40%と低い。

(3年生) 学習確認プログラム 1st Stage

- ・全市平均に比べて国語が 1 ポイント程度高いが、社会が 3 ポイント、数学・理科が 2 ポイント、英語が 7 ポイント程度低い。国語以外は前年度と比べてがんばり度が下がっている。
- ・国語は「話すこと・聞くこと」が 6 ポイント程度低く、正答率 50%以下に分布のこぶが見られる。
- ・社会は「日本の地域的特色」が 11 ポイント程度低く、正答率 50%以下が中央値である。
- ・数学は「図形・関数」が 1 ポイント、「数と式・データの活用」が 3 ポイント以上低い。
- ・理科は「化学」が全市平均並みだが、「地学」が 6 ポイント程度低く、正答率 50%以下が中央値である。
- ・英語は全領域で 7 ポイント程度低く、上位の生徒が少ない。
- ・ふだん 1 時間以上勉強しているのは 50%であるが、予習復習プリントは 20%以下と低い。

(3年生) 全国学力学習状況調査

- ・全国・京都府平均と比べて国語が 5 ポイント、数学が 3 ポイント、理科が 4 ポイント程度低い。
- ・国語は「書くこと」「情報の扱い方」に関しては無解答率も高い。国語の勉強が好きと答えた生徒は 80%である。
- ・数学は「関数」「データの活用」が 6 ポイント程度低い。問題の解き方がわからないときはいろいろな方法を考えたり、公式や決まりを習うときそのわけを理解したりするようにしていると答えた生徒は 70%である。
- ・理科は「思考・判断・表現」が 6 ポイント程度低い。解答を文章などで書く問題で、最後まで解答を書こうと努力したと答えた生徒は 70%である。



自己評価	分析(成果と課題)
	<p>教科別に見ると、国語については全学年を通して概ね良好といえる。2年生については社会が牽引して全教科の学習意欲や学習態度は良好といえるが、数学、理科、英語については全学年を通して「データの活用」など、身につけた知識・技能を活用して思考・判断・表現する力が伸ばしきれていないこと、中低位の生徒が一定数いることに課題が見られる。</p> <p>授業内で既習した内容であれば、自分なりに考えを深め、文章にする力は身についてきた。中低位層の生徒に、学習で得た知識の活用に短絡的な思考や判断に陥り深く洞察する習慣にかけている傾向が見られる。根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことや話し方の工夫について自分で考えること、データの分布の特徴を読み取ることや日常的な事象を数学的に解釈して問題解決の方法を数学的に説明すること、他者の考えの妥当性を検討したり実験の計画が適切か検討して改善したりすることなどに課題が見られる。</p> <p>アンケートによると、学習に関する生徒の自己有用感や向上心、協働性、学校に対する信頼は高い傾向が見られ、特に2年生は肯定的に答える生徒が多い。ただ授業全てがわかる・できる・楽しいと思わない生徒なども一定数いることが大きな課題である。また家庭での学習の規律や読書の習慣、家族との対話などに否定的な回答が多く、打開対策が必要である。生徒と保護者の回答結果に乖離が見られるのは、家庭での生徒の自己分析感覚の甘さと、コロナ感染拡大予防対策として保護者の来校を制限したことにも原因があると考えられる。</p>
	分析を踏まえた取組の改善
	<p>初見の問題を読み取り、情報を分析し、新たな考えを生み出す力は磨いていく必要がある。日ごろから多くの文章にふれ、思考を耕すことが必要である。前向きな姿勢を大切に、学力も併せて身に付けることで自信をつけさせたい。論理的な思考をする力を身につけ見通しを持って問題を解くこと部分的な解釈にとどまらず、また教科の学習だけにとどまらず、色々な学習が私たちの生活に関わっているのだという前提で物事を観察していくと、思考や判断も深まっていく。質問の答えと正答率の相関関係を見るクロス集計によると、自分の考えを発表する機会など、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立て</p>

などを工夫して発表していることに肯定的に回答した生徒ほど教科の平均正答率が高い傾向がみられることからも、主体的・対話的で深い学びにつながる学習が大切であることが明確になっている。

「ESD-SDGsカレンダー」「評価カレンダー」をもとに、様々な場面での生徒の学びやつけたい力の体系的な見通しと補填を行う校内研修を実施した。教科間のカリキュラムマネージメントを進めて、その教科でしかつけられない力をつける独自の工夫を凝らしてもらうきっかけとしたい。

コロナ感染拡大予防対策のひとつに協働的な学びの手段になるグループでの学習に制限があったこと、GIGA スクール構想の実現に向けても機器のメンテナンス等課題が多くなったなど、障壁といえることがあるが、各教科が工夫を凝らして「個」の学びと「協働的」な学びのバランスを取り、「思考・判断・表現」の力をつける学習場面を増やしていく。

生徒の家庭での対話を増やすために、家庭や地域を巻き込んだ SDGsの取組や、家庭の協力を必須とする題材の工夫、懇談や参観日に学習の成果物を発表するなど、学習に関して共通の話題ができる機会と場面を積極的に設定する。

家庭での読書の習慣化に向け、学校での朝読書の徹底並びに、委員会活動や教科での図書館の利用、図書資料の活用など ICT と共存させる。合わせて言語活動の充実も意識する中で「読む力（読解力）」につながることを強化する。

「わからない・できない」と感じている一定数の生徒が「わかる・できる」を実感できるよう、学習会や未来スタディなどの場面を活用し、少しでも生徒の学びたい学習に近づく支援にする。これをさらに通常の授業に活かし個別最適な学びを深められるようにする。

校内研究授業週間では、「知識・技能」を活用した「思考力・判断力・表現力」を育成するための学習活動を積極的に取り入れることと、評価の見取りと手立ての振り返り、指導と評価の一体化に努め、生徒一人一人の学習目標の達成に向けてニーズに応じた指導を徹底するとともに C 評価生徒への手立てを遂行することに研究目標を絞り、研究授業を交流する。また生徒の個々の特性を把握して、学習指導に生かす研修も実施する。

公開授業参観日に保護者に来校してもらい、生徒の学習の実態を直接参観することで、生徒との意識のずれや学習指導の目標や改善などに協力してもらうきっかけとしたい。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- (1年生) 学習確認プログラム Basic1
- (2年生) 学習確認プログラム Pre-Stage2
- (3年生) 学習確認プログラム2nd Stage
- (生徒アンケート)
- (保護者アンケート)
- 校内研究授業週間・校内研修
- 公開授業参観日

学校関係者による意見・支援策

学校運営協議会(書面報告)により済ませています。
中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。
後期も引き続き家庭・地域と共に学ぶ取組に賛同をいただいています。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

「誰一人取り残さない」というSDGsの理念等も踏まえ、多様な価値観を認め、互いに尊重し合い助け合う教育の推進。豊かな感性・情操を育む教育に取り組む。

具体的な取組

- ① 道徳教育の充実。よりよく生きるために、自己を見つめ、物事を広い視野から考えて、生き方について考えを深める道徳教育の目標を理解し、適切な評価を行う。
- ② 支え合い高め合う集団づくりの推進・多様性を理解する姿勢の涵養・学校教育のあらゆる場面で「命を大切にし人権を尊重する心」を育む。人権学習プログラムの充実を図る。
- ③ 小学校や地域とも協働し、教育課程の中で全ての子どもの自己有用感を育む積極的生徒指導に取り組む。
- ④

(取組結果を検証する) 各種指標

クラスマネジメントシート、道徳振り返り、キャリアパスポート

学校生徒アンケート、保護者アンケート、教職員アンケート

中間評価

各種指標結果

学校評価アンケート(生徒の回答)より

全ての取組に関連する項目

◎私は自分のことを大切にしている(大切に思う)

実現度 とてもそう思う・そう思う 290 あまり思わない・思わない 52 わからない 52

必要度 とても必要・必要である 324 あまり必要でない・必要でない 30 わからない 40

◎私は人のことを大切にしている(大切に思う)

実現度 とてもそう思う・そう思う 352 あまり思わない・思わない 17 わからない 25

具体的な取組①に関連する項目

◎私は、七条中学校で「ルールを守ることやマナーの大切さ」を学べている

実現度 とてもそう思う・そう思う 345 あまり思わない・思わない 28 わからない 19

必要度 とても必要・必要である 350 あまり必要でない・必要でない 16 わからない 28

◎私は学校のルールを守り、マナーを心掛けている

実現度 とてもそう思う・そう思う 368 あまり思わない・思わない 17 わからない 10

必要度 とても必要・必要である 351 あまり必要でない・必要でない 21 わからない 22

◎先生たちは、私に「努力することの大切さ」を教えてくれている

実現度 とてもそう思う・そう思う 350 あまり思わない・思わない 25 わからない 19

必要度 とても必要・必要である 336 あまり必要でない・必要でない 28 わからない 30

◎私はボランティア活動に参加するなど、地域や社会に役立つことができている

実現度 とてもそう思う・そう思う 122 あまり思わない・思わない 218 わからない 54

必要度 とても必要・必要である 309 あまり必要でない・必要でない 37 わからない 48

具体的な取組②に関連する項目

◎七条中学校は、生徒一人ひとりを大切にしていると思う

実現度 とてもそう思う・そう思う 342 あまり思わない・思わない 29 わからない 23

必要度 とても必要・必要である 356 あまり必要でない・必要でない 15 わからない 23

◎七条中学校は、いじめや暴力を許さない学校だと思う

実現度 とてもそう思う・そう思う 343 あまり思わない・思わない 24 わからない 27

必要度 とても必要・必要である 361 あまり必要でない・必要でない 9 わからない 24

◎私は、意見の違いや少数意見があるとき、取り入れ方を考えるようにしている

実現度 とてもそう思う・そう思う 302 あまり思わない・思わない 43 わからない 49

必要度 とても必要・必要である 330 あまり必要でない・必要でない 24 わからない 40

具体的な取組③に関連する項目

◎先生たちは私の良いところをほめたり、認めたりしてくれる

実現度 とてもそう思う・そう思う 350 あまり思わない・思わない 26 わからない 18

必要度 とても必要・必要である 334 あまり必要でない・必要でない 35 わからない 35

◎私は、家庭・友達・学校のことを先生に話している。

実現度 とてもそう思う・そう思う 242 あまり思わない・思わない 138 わからない 17

必要度 とても必要・必要である 274 あまり必要でない・必要でない 85 わからない 35

自己評価

分析(成果と課題)

<成果>

- ・昨年度と同様、人を大切にするという項目で実現度が高く、集団の中での他者とのかかわりや思いやりを学ぶことができるよう、道徳や総合的な学習の時間を中心に、様々な場面で意図をもって活動を行ってきた成果であると考える。
- ・具体的な取組①に関わる項目として、ルールやマナーの大切さを学ぶこととそれを実践することに関して、高い実現度・必要度であった。また、努力する大切さを教えてくれることに関しても高い実現度であった。これは、道徳やさまざまな行事、また日々の学校生活を通して、学校としての思いが伝わっていると考えられる。
- ・具体的な取組②に関わる項目として、一人ひとりを大切にしている・いじめや暴力を許さないに関して、高い実現度・必要度であった。また、この項目に関しての保護者の回答に関しても同じく高い実現度・必要度であった。これは、全教職員の「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」日々の教育活動の成果であると考える。
- ・具体的な取組③に関する項目として、良いところをほめたり、認めたりすることに関して、高い実現度であった。これは、子どもの自己有用感を育む積極的生徒指導が効果的にはたらいているからであると考える。

<課題>

- ・昨年度と同様、自分自身を大切にしているかという項目に関して、人を大切にしているかという項目と比較すると、実現度が低くなっている。また、この項目は他の項目に比べると「わからない」の回答がやや多くみられる。これらは、中学生の発達段階においてさまざまな葛藤が生まれていることが理由として考えられる。自分のありのままを認め、大切に思うことができるようになることが課題である。
- ・具体的な取組①に関わる項目として、地域や社会に貢献できているかということに関して、「あまりでき

ていない」という回答が全学年で最も多くなった。必要度に関しては、どの学年も必要であると回答する割合が多かったことから、道徳や総合的な学習の時間を通して、必要であることは理解しているけれど、それを実践することが難しいということが考えられる。道徳科の目標にもある、道徳的な判断力、心情は育ってきているが、実践意欲と態度を高めていくことが課題である。

- ・具体的な取組②に関わる項目として、意見の違いや少数意見の取り入れ方を考えるようにしているかということに関して、必要度に比べて実現度がやや低くなっていた。これは、人の話を最後まで聞いてから自分の意見を伝えることや自分の考えや意見を伝えることに関しても同じ傾向が見られた。これは、集団の中でお互いを認め合い意見を言い合えることを必要と感じているが、思春期ゆえの自己表現の難しさや、具体的にどのように違う意見や少数意見を取り入れていくかという経験の不足が課題であると考えられる。
- ・具体的な取組③に関わる項目として、家庭・友達・勉強のことを先生に話しているかということに関して、実現度がやや低く、必要度も他の項目と比較すると低い傾向が見られた。これも自己表現の難しさと、教師と話したり相談したりする機会の少なさが課題であると考えられる。特にポジティブな内容に関しては気軽に他の生徒がいる中でも話はできるが、ネガティブな内容に関しては、落ち着いた環境で話せるようにする必要がある。しかし、これが現状では教育相談以外にはほとんどないため、そのような機会を意図的につくっていくことが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「集団の学びの中で、自分の出し方をどのように調整していくか」を後期のクラスづくりや学年行事、日々の教科の授業で意図的に取り入れる。そのために、安心してお互いの意見を出し合えるような機会を多くつくり、自分の意見が認められる経験を積み重ねていくことで、自分自身を認められるようにしていく。また、そのうえで相手も自分と同じように大切な存在であることを理解し、さまざまな意見を取り入れて合意形成をしていくことを、生徒自らの手でできるようにする。
- ・必要度と実現度に差があるものに関して、実践意欲と態度を高められるような働きかけをしていく。特に道徳の時間において、培った道徳的な判断力や心情を、どのように実践につなげられるかを考えることや、実際に行動につなげられたかどうかを学期末に振り返ることを重点的に行う。また、総合的な学習の時間や人権学習などを通しても、意識的に実践意欲や態度を高められるようにする。
- ・教職員と生徒の日常の関係づくりを深めていく。さまざまな場面で、生徒のようすを注意深く見取り、教職員間での共有や保護者・生徒への発信を行う。また、生徒が気軽に教職員に対してアプローチでき、落ち着いた環境で話ができるようにする。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

クラスマネジメントシート、道徳振り返り

学校生徒アンケート、保護者アンケート、教職員アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校運営協議会(書面報告)により済ませています。

中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。

地域や家庭からの支えも大きく影響するため、後期も引き続きご支援いただくことや、気付かれた点を共に考えていくことに対し賛同いただいています。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

安全教育の充実・食に関する指導の推進と、基本的な感染症対策の徹底に向け、教職員・生徒の意識化を図る。

具体的な取組

- ① 新たな感染症に対して教職員が最新の知見をもとに感染症を理解し、生徒が感染症のリスクを自ら判断しそれを踏まえた行動がとれるよう、感染症対策と教育活動の推進の両立に取り組む。
- ② 教科・領域活動、生徒会活動、体育学習および運動部活動、保健指導等を連動させて「保健教育」「食教育」をより効果的に推進する。
- ③ 基本的生活習慣の確立に努め、本校生徒の課題に応じた具体的な取組を強化する。
- ④ 学校教育全体を通して計画的に安全教育・防災教育・飲酒・喫煙・薬物に関する指導を展開する。

(取組結果を検証する)各種指標

心と体のアンケート、学力向上プランで示したアンケート、健康観察と保健室来室状況での要因分析

学校評価アンケート

中間評価

各種指標結果

◎私は朝食を食べてから登校している。

食べない日もある・朝食は食べない・わからない 生徒 1年9名、2年21名、3年24名
保護者 1年5名、2年6名、3年9名

(必要度)あまり必要でない・必要でない・わからない 生徒 1年19名、2年21名、3年18名
保護者 すべて0名

◎私は6~8時間の睡眠時間をとっている。

睡眠不足または睡眠過多・わからない 1年16名、2年11名、3年17名
保護者 1年6名、2年6名、3年12名

(必要度)あまり必要でない・必要でない・わからない 1年18名、2年20名、3年14名
保護者 すべて0名

◎私はPC・スマホ・タブレットの機器を使うとき、家庭のルールを守っている

あまり守っていない・守っていない・わからない 1年27名、2年43名、3年45名
保護者 1年35名、2年25名、3年37名

(必要度)あまり必要でない・必要でない・わからない 1年18名、2年26名、3年40名
保護者 1年1名、2・3年0名

◎私はテレビ・ビデオ・DVDを見るとき、時間など家庭のルールを守っている。

あまり守っていない・守っていない・わからない 1年32名、2年42名、3年45名
保護者 1年27名、2年17名、3年26名

(必要度)あまり必要でない・必要でない・わからない 1年26名、2年26名、3年41名
保護者 1年1名、2・3年0名

※その他は個々の内容に関わるため、下記分析に文章表記。

自己評価	分析(成果と課題)
	① 新型コロナ感染症に対する理解行動は、適切なものとなっている。
	② 「食教育」については保健安全委員会と連携をした取組(食育放送)を行っている。「保健教育」については、今年度受けた健康教育推進事業の取り組みとタイアップを始めている。2 学期以降、さらに充実させていきたい。
学校関係者評価	③ 「朝食」「睡眠」について課題のある生徒が少数ながらいるが、個々の事情に踏み込まないと改善は期待できない。(例.塾からの帰りが 10 時や 11 時になり就寝時間が遅くなる、など。)また、朝食摂取状況について「わからない」を選択した生徒が気になる。
	④ 安全教育の一環として救急救命研修会に HANA モデルを取り入れたことにより、緊急時の対応の課題が浮かび上がり、意識も変容した。薬物に関しては、段階的に 3 学年の実施を計画している。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	① 引き続き取り組みを続ける。
学校関係者評価	② 上記分析に記入。
	③ 朝食および睡眠について気になる生徒をリストアップし、来室時に個々の事情をていねいに聞き取る。
学校関係者評価	④ 上記分析に記入。
	(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標
学校関係者評価	数値化できないものが多いので、健やか教育部会での振りかえりを主とする。
	健康観察票(10 月以降)
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	学校運営協議会(書面報告)により済ませています。 書面での回答では、中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。 子どもたち一人ひとりに対し、担任だけではなく学年や学校全体での関わりをすすめていくことや、必要に応じて専門的なスタッフが関わりをもつことの確認をしています。また、大人からだけでなく、生徒自身の内面からの意識改善をはかることを確認しました。

(4) 学校独自の取組

重点目標
七条中エリア小中一貫教育グランドビジョン 「豊かな心」を育む小中一貫教育の推進 ～「自立・自律の心」「自己有用感」「規範意識」～
具体的な取組
① 4校合同研修会…「義務教育9年間の学びと育ち」という視点をもち、付けたい資質・能力を共有して共通実践できるエリア教職員をめざす。
② 教職員の授業交流…自立・自律の礎となる主体性が發揮される授業づくり(授業改善)を各校がめざす。(脱・教師主導型をメインテーマに据えて)
③ 活動交流…部活動体験、育成学級交流等、様々な活動を通して異年齢の好ましい関係づくりを進める。
④ 児童会・生徒会会議…中学生のリードの下、「子どもの本気」の原案を考えたり、取組を効果的・主体的にすすめるためのアピールを話し合ったりする。

⑤ アンケート調査…4校が共に、いじめのない学校づくり、他人にやさしい教育活動をすすめるため、経年での意識や社会性の変容を探る。

(取組結果を検証する)各種指標

学校生徒アンケート、保護者アンケート、教職員アンケート

中間評価

各種指標結果

コロナ禍で交流等ほとんど実施できていないため、アンケートから読み取れるものを示すこととする

学校評価アンケートより

▼(教職員 20 人中)自分は生徒の見本(ロールモデル)になっていると思う

実現度 (5 人)よくできている (13 人)大体できている

(2 人)あまりできていない

必要度 (13 人)全員とても必要 (6 人)やや必要 (1 人)あまり必要でない

■(保護者 213 人中)七条中学校では、ルールやマナーについて子どもたちに考えさせている

実現度 (60 人)よくできている (116 人)大体できている

(5 人)あまりできていない (32 人)わからない

必要度 (1 人)あまり必要でないわからない あとは、とても必要またはやや必要

■(保護者 200 人中)七条中エリア 4 校では授業改善や学力向上に取り組んでいる

実現度 (42 人)よくできている (92 人)大体できている

(10 人)あまりできていない (35 人)できていない (21 人)わからない

必要度 (3 人)わからない あとはとても必要またはやや必要

◎(生徒 394 人中)七条中学校の学びは社会に出たら生きるものだと思う

実現度 (173 人)とてもそう思う (164 人)そう思う (34 人)あまり思わない

(9 人)思わない (14 人)わからない

必要度 (12 人)あまり必要でない (8 人)必要でない (31 人)わからない

■(保護者 102 人中)七条中学校の学びは社会で生きるものになっている

実現度 (36 人)よくできている (108 人)大体できている

(7 人)あまりできていない (23 人)できていない (27 人)わからない

必要度 (2 人)わからない あとは全員とても必要またはやや必要であると回答

▼(教職員 20 人中)七条中学校の学びは社会で生きるものになっている

実現度 (6 人)とてもそう思う (10 人)そう思う (2 人)あまり思わない

(1 人)思わない (1 人)わからない

必要度 全員とても必要またはやや必要

自己評価

分析(成果と課題)

(成果)・「エリア校長会」の開催による、小中一貫グランドビジョン(小中一貫構想図)の作成・取組状況の確認ができた。

・小中エリア主任会「生徒会・児童会」「教務主任会」「生徒指導会」「研究主任会」の実施ができ、小中の課題や確認事項、取り組み状況等の確認ができた。

・七条中学校エリア「子どもの本気 大人の本気」のポスター作成と配布により、エリア全体での意識が高まり地域や保護者への啓発にもつながった。

	<p>(課題)・計画していた具体的な取り組みが中止になり、交流そのものができなかつたため、エリア各校の単独実施に変わり、エリアの良さを活かせる場面があまりなかつた。</p> <p>・保護者や地域の方々からすると、小学校と中学校の比較になることがあるが、子どもに関わるエリアの大人として保護者・地域・教職員がまとまり社会の担い手育成を意識する必要がある。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアのグランドビジョンをふまえ、取組をより地域・保護者の願いや思いが活かされたものにする。 ・一緒に行うことの目的にするのではなく、将来の地域の担い手として、地域づくりを意識した内容につながるような活動を取り入れる(総合的な学習の時間など) ・GIGA 端末を活用しての交流なども検討していく。
	<p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・エリア 4 校の学校評価分析 ・総合的な学習の時間の評価
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校運営協議会(書面報告)により済ませています。</p> <p>中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。</p>

(5) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <p>健康維持に努め、常に自己研鑽を積み、互いに学び高め合う教職員</p>
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 部活動終了時刻を通年で 16 時 45 分、完全下校を 17 時に設定する。 ② 平日の閉校時刻を 19 時に設定し、水曜日は 18 時 30 分とする。 ③ 本(読書)・旅(旅行)・人(会話)を通して自己研鑽を積むことをめざす。 ④ 面談等で教職員のキャリアプランについて話すことで、将来を見通した働き方を考える。
	<p>(取組結果を検証する)各種指標</p> <p>出退勤システム、教職員面談、学校教職員アンケート</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>①部活動終了時刻</p> <p>原則特例なしで実行している。</p> <p>②平日の閉校時刻を 19 時に設定し、水曜日は 18 時 30 分とする。</p> <p>4 月・5 月・7 月・9 月は行事と大会・発表等重なるため、設定時刻通りになつてない日が多い。</p> <p>時間外勤務</p> <p>月 45 時間超(6 割) 80 時間超 4 月 7 名、5 月 4 名、6 月 4 名、7 月 5 名、8 月 0 名、9 月 3 名</p>
--	--

③本(読書)・旅(旅行)・人(会話)を通して自己研鑽を積むことをめざす。

②を実行できている場合はこれも実践できていることが多い。

④面談等で教職員のキャリアプランについて話すことで、将来を見通した働き方を考える。

自分自身での健康面を含めた見通しを持てている場合は、短期・長期共に将来を見通した働き方ができている。

自己評価

分析(成果と課題)

(成果)

- ・内容は継続的に見直しを重ねながら進めているため、年々改善されている。
- ・自分自身で健康面や睡眠時間の確保の意識が高まっていることにより、退勤時刻も早まっている。
- ・将来の展望を持つことにより、限られた時間の中で見通しをもった行動ができるようになっている。

(課題)

- ・時間外勤務 80 時間超の教職員が夏季休業中の 8 月を除き、全月確認されていることから、これまで通りの働き方を根本的に見直す必要がある。
- ・上記の働き方だけでなく、自分自身の健康状態や趣味等の過ごし方、家族・家庭のことなどを含めた関わり方、タイムマネジメントの必要性を見直す必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・呼びかけは継続するが、内面からの自分での気付きのため、学年や係、学校全体でのマネジメントを行う。
- ・教職員でなければできないことと、そうでないことを整理し、保護者や地域の方にも七条中スタッフとして協動的に動いていただくしくみをつくる。
- ・会議や打ち合わせなどを、方法論から目的思考に変え、理解や共有にかかる時間を減らす。
- ・校内研修においては、受け身の理論ではなく、ワークショップや対話を取り入れながら実践につながるようにする。
- ・各計画において、時間外にかかるような設定をなくすまたは、日程・時程での調整を行う。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

出退勤システム、教職員面談、学校教職員アンケート、校内研修まとめ(ふりかえり)

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校運営協議会(書面報告)により済ませています。

中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。

七条中スタッフとしての取り組みを進めていただいている。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

いじめ未然防止のための学習環境の整備、生徒同士の絆づくり、主体的な活動の充実

早期発見・積極的認知のための日常の観察と調査の活用

深い生徒理解による、手遅れのない対応と心の通った指導

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

(取組結果を検証する) 各種指標

・学校生徒アンケート

- ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めているか。
- ②学校いじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介しているか。
- ③生徒アンケート⑥⑦⑪⑩⑩およびクラスマネジメントシートの活用。
- ④生徒・保護者の訴え(アンケート含む)や相談内容を共有しているか
- ⑤保護者や学校運営協議会等に学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明周知しているか。

中間評価

各種指標結果

学校評価アンケート(生徒400人の回答)

6「七条中学校に私は楽しく通えている」

良い評価(1または2)と答えた割合:89.5% 悪い評価(3,4,5)と答えた割合:10.5%

実現度 (16人)あまりできていない (11人)できていない (15人)わからない

重要度 (14人)あまり必要でない (4人)必要でない (24人)わからない

7「七条中学校はいじめや暴力を許さない学校だと思う」

良い評価(1または2)と答えた割合:87.2% 悪い評価(3,4,5)と答えた割合:12.8%

実現度 (17人)あまりできていない (7人)できていない (27人)わからない

重要度 (4人)あまり必要でない (5人)必要でない (24人)わからない

11「七条中学校は生徒一人ひとりを大切にしていると思う」

良い評価(1または2)と答えた割合:87.0% 悪い評価(3,4,5)と答えた割合:13.0%

実現度 (19人)あまりできていない (10人)できていない (23人)わからない

重要度 (10人)あまり必要でない (5人)必要でない (23人)わからない

30「私は、自分とは違う意見や少数意見があるとき、対立せずに取り入れ方を考えようとしている。」

良い評価(1または2)と答えた割合:77.0% 悪い評価(3,4,5)と答えた割合:23.0%

実現度 (32人)あまりできていない (11人)できていない (49人)わからない

重要度 (19人)あまり必要でない (5人)必要でない (40人)わからない

32「私は自分のことを大切にしている(大切に思う)」

良い評価(1または2)と答えた割合:74.0% 悪い評価(3,4,5)と答えた割合:26.0%

実現度 (38人)あまりできていない (14人)できていない (52人)わからない

重要度 (18人)あまり必要でない (12人)必要でない (40人)わからない

- ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めているか。

見逃しのない観察は行えている。さらに初期対応から組織的対応への流れの確立が必要。

- ②学校いじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介しているか。

	<p>HP 等で示している。</p> <p>③生徒アンケート⑥⑦⑪⑩⑫およびクラスマネジメントシートの活用。</p> <p>クラスマネジメントシートの結果から今後の活用につなげている。</p> <p>④生徒・保護者の訴え(アンケート含む)や相談内容を共有しているか。</p> <p>訴えや相談内容の共有は迅速に行えている。対応については、事実確認を丁寧に行っている。</p> <p>⑤保護者や学校運営協議会等に学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明周知しているか。</p> <p>書面や HP、学校説明会での伝達を行っている。</p> <p>クラスマネジメントシート</p> <p>昨年度は、「自己開示」と「クラスのやすらぎ」の値が比例しないクラスもあったことから、日常的に自己開示の場を作り出すようにしていた。今年度はそのような値を示すクラスは減り、ほぼ比例して平均値から高い値を示していた。また極端にバランスの悪い値もなく、全体的に落ち着いた結果となっている。</p>
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <p>成果: 6、7、11の質問に関して85%以上の生徒が肯定的な回答をしている。楽しく通えることや、いじめに対する周囲の姿勢、大切にされている安心感はいじめを防止するうえで大切な要因であると考える。これは生徒同士、生徒と保護者、生徒と教師の日々の関係つくりから得ることができた成果であると見ることができる。</p> <p>課題: 一方で6、7、11の質問に対して否定的な回答をしている生徒も一定数存在する。「誰一人取り残さない教育を進める」うえで、この数字を0にすることが今後の課題と言える。</p> <p>また30、32の質問に対しては、20%以上の否定的な回答が見られた。6、7、11と比べても否定的な回答の割合が多くなっていることが見て取れる。このことから他者の考え方や意見を受け入れる多様性への対応力や自己肯定感の低さが課題になると考えることができる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>一見すると楽しそうに過ごしている生徒でも困りを抱えているかもしれないという意識をもち、「見逃しのない観察」、「手遅れのない対応」を積極的に行うことで、取りこぼしのない学校教育を実践する</p> <p>日々の生徒指導において、生徒の考え方や行動、異なる意見なども様々な視点から評価、肯定することで多様性の理解へつなげたり、自己肯定感を高めることへつなげたい。そのさいに教師からだけではなく、生徒からの声や意見を取り上げることができるように、お互いの意見を交流させたり、取組を振り返らせることを実施していきたい。いじめ対策委員会</p> <p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスマネジメントシート値の経過とバランス ・学校評価アンケートの数値のうち教職員・保護者・生徒の低い値の差 ・各ふりかえりの内容
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校運営協議会(書面報告)により済ませています。</p> <p>中間報告ということもあり、特にご意見はありませんでした。</p> <p>地域や保護者の方が、地域の大人として関わっていただくことに賛同していただいています。</p>

